

今年こそは 広報げろ 2009.1

今年こそは

現在タバコを吸っている人のほとんどはタバコをやめたいかやめようと思っているといわれています。タバコは悪いところばかりで良いところの一つも無いことはわかっているにもかかわらず、さまざまな理由を付けて吸わざるを得ない。これが、タバコが“麻薬”である由縁です。

◎喫煙率の変化

日本人男性の喫煙率はこの10年間、徐々にしかし着実に減って平成18年には39.9%となっています。女性は10%近くを維持しており変わっていません。タバコの中の発がん物質は肺がんばかりでなく尿の中に排出され膀胱がんをも引き起こします。

◎がんより怖いタバコの害

タバコの害の中で、がんよりも静かにしかし着実に進行するCOPD(慢性閉塞性肺疾患)という病気があります。普通、細菌やウイルスなどによって引き起こされる肺炎は薬で治りますがCOPDは酸素と炭酸ガスを交換する肺胞が壊され肺のガス交換機能が徐々に失われ、これは元には戻らずタバコを吸う限り徐々に進行します。酸素吸入が必要となり肺移植しか治療の道はありません。COPDは将来死亡原因の第3位となるといわれています。さらにタバコの害で重要なものに副流煙があります。副流煙は直接吸い込む煙の何倍もの発がん物質と臭い物質を含んでいます。喫煙者が吐き出す息ばかりでなく煙がしみこんだ服も害になるのです。

◎ タバコの経済的損失

1個300円のタバコを下呂市で買うと約67円の税金が下呂市に入ります。一日20本吸う人は年間2万4千円下呂市に納めていることとなります。現在下呂市には年間2億1千万円ほどのタバコ税が入っています。しかしタバコが引き起こす病気に対する医療費などの損失はこれを大きく上回っています。肺がんの手術を受けると150万円以上かかり、これは1日20本、62年以上吸い続けて下呂市に納める税金と同じ額です。

◎ タバコと仕事効率

タバコを吸うと仕事の効率が上がるという人がいます。喫煙者はニコチンがきれるといらいらし、タバコを吸うことによってイライラがおさえられるだけのことで仕事効率が上がるわけではありません。タバコを吸うことによって、落ちていた効率が元に戻るだけのことです。PET検査でも脳血流量がタバコを吸うことによって極端に落ちることがわかっています。

◎ タバコは麻薬です。

ニコチンは依存性が高く麻薬と同じで意思の力だけでタバコをやめることは困難です。このため禁煙を医療がサポートする必要があるとして医療保険適応となりました。禁煙のために金山病院禁煙外来をご利用ください。 下呂市立金山病院 院長 古田智彦